

名(27.5%)、「40歳以上」が63名(22.5%)であった。

父親の雇用形態(N=602)は、「民間企業の正社員・正職員(常勤雇用)」が335名(55.6%)、「公務・団体の正職員(常勤雇用)」が142名(23.6%)、「臨時雇用(季節雇用も含む)」が35名(5.8%)、「パートタイマー」が0名(0.0%)、「無職」が3名(0.5%)、「その他」が87名(14.5%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の雇用形態(N=277)は、「民間企業の正社員・正職員(常勤雇用)」が173名(62.5%)、「公務・団体の正職員(常勤雇用)」が47名(17.0%)、「臨時雇用(季節雇用も含む)」が17名(6.1%)、「パートタイマー」が2名(0.7%)、「無職」が3名(1.1%)、「その他」が35名(12.6%)であった。

父親の職業(N=600)は、「事務(一般事務など)」が62名(10.3%)、「店員(スーパー・商店の店員など)」が14名(2.3%)、「営業・セールス(保険・自動車などのセールス)」が77名(12.8%)、「農・林・水産業」が25名(4.2%)、「運輸・通信(職業運転手・荷役などの運輸従業者、通信従事者)」が57名(9.5%)、「製造・建設業(製造、加工、組立、建設、修理などの従事者)」が113名(18.8%)、「工員・作業員」が30名(5.0%)、「理容・美容などのサービス業」が5名(0.8%)、「飲食店などのサービス業」が17名(2.8%)、「専門職・技術的職業(医師、看護師、保育士、教員、弁護士、税理士など)」が110名(18.3%)、「管理的職業」が35名(5.8%)、「その他」が55名(9.2%)となっていた。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の職業(N=274)は、「事務(一般事務など)」が24名(8.8%)、「店員(スーパー・商店の店員など)」が12名(4.4%)、「営業・セールス(保険・自動車などのセールス)」が54名(19.7%)、「農・林・水産業」が0名(0.0%)、「運輸・通信(職業運転手・荷役などの運輸従業者、通信従事者)」が16名(5.8%)、「製造・建設業(製造、加工、組立、建設、修理などの従事者)」が42名(15.3%)、「工員・作業員」が14名(5.1%)、「理容・美容などのサービス業」が5名(2.2%)、「飲食店などのサービス業」が13名(4.7%)、「専門職・技術的職業(医師、看護師、保育士、教員、弁護士、税理士など)」が55名(20.1%)、「管理的職業」が17名(6.2%)、「その他」が21名(7.7%)となっていた。

父親の出勤時間(N=597)は、「午前7時前」が111名(18.6%)、「午前7時～8時前」が238名(39.9%)、「午前8時～9時前」が154名(25.8%)、「午前9時～10時前」が26名(4.4%)、「午前10時～午後5時前」が7名(1.2%)、「午後5時以降」が4名(0.7%)、「決まっていない(交代勤務など)」が57名(9.5%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の出勤時間(N=275)は、「午前7時前」が49名(17.8%)、「午前7時～8時前」が100名(36.4%)、「午前8時～9時前」が78名(28.4%)、「午前9時～10時前」が18名(6.5%)、「午前10時～午後5時前」が3名(1.1%)、「午後5時以降」が2名(0.7%)、「決まっていない(交代勤務など)」が25名(9.1%)であった。

父親の帰宅時間(N=595)は、「早朝」が5名(0.8%)、「昼ごろ」が3名(0.5%)、「午後3時ごろ」が2名(0.3%)、「午後5～6時ごろ」が145名(24.4%)、「午後7～8時ごろ」が196名(32.9%)、「午後9～10時ごろ」が130名(21.8%)、「午後11時よりも遅い時間」が41名(6.9%)、「決まっていない(交代勤務など)」が73名(12.3%)

%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の帰宅時間(N=273)は、「早朝」が1名(0.4%)、「昼ごろ」が0名(0.0%)、「午後3時ごろ」が1名(0.4%)、「午後5～6時ごろ」が51名(18.7%)、「午後7～8時ごろ」が87名(31.9%)、「午後9～10時ごろ」が72名(26.4%)、「午後11時よりも遅い時間」が30名(11.0%)、「決まっていない(交代勤務など)」が31名(11.4%)であった。

夫婦の共同行動について(N=688)は、ここ半年間における夫婦の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が363名(52.8%)、「買い物に行く」が250名(36.3%)、「映画・観劇・コンサートに行く」が39名(5.7%)、「外食する」が149名(21.7%)、「ドライブ・ハイキングに行く」が28名(4.1%)、「旅行・キャンプに行く」が7名(1.0%)、「スポーツをする」が24名(3.5%)、「ゲームをする」が45名(6.5%)、「カラオケに行く」が19名(2.8%)、「パチンコに行く」が39名(5.7%)、「家でお酒を飲む」が197名(28.6%)、「ゆっくり話をする」が218名(31.7%)、「その他」が18名(2.6%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、夫婦の共同行動について(N=348)は、ここ半年間における夫婦の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が157名(45.1%)、「買い物に行く」が119名(34.2%)、「映画・観劇・コンサートに行く」が25名(7.2%)、「外食する」が88名(25.3%)、「ドライブ・ハイキングに行く」が21名(6.0%)、「旅行・キャンプに行く」が6名(1.7%)、「スポーツをする」が11名(3.2%)、「ゲームをする」が21名(6.0%)、「カラオケに行く」が12名(3.4%)、「パチンコに行く」が27名(7.8%)、「家でお酒を飲む」が99名(28.4%)、「ゆっくり話をする」が109名(31.3%)、「その他」が11名(3.2%)であった。

親子の共同行動について(N=688)は、ここ半年間における親子の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が515名(74.9%)、「買い物に行く」が555名(80.7%)、「映画・観劇・コンサートに行く」が124名(18.0%)、「外食する」が524名(76.2%)、「ドライブ・ハイキングに行く」が437名(63.5%)、「旅行・キャンプに行く」が348名(50.6%)、「スポーツをする」が116名(16.9%)、「ゲームをする」が215名(31.3%)、「カラオケに行く」が90名(13.1%)、「家でお酒を飲む」が84名(12.2%)、「ゆっくり話をする」が175名(25.4%)、「その他」が15名(2.2%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、親子の共同行動について(N=348)は、ここ半年間における親子の共同行動として、「テレビやビデオを見たり音楽を聴く」が243名(69.8%)、「買い物に行く」が275名(79.0%)、「映画・観劇・コンサートに行く」が63名(18.1%)、「外食する」が260名(74.7%)、「ドライブ・ハイキングに行く」が202名(58.0%)、「旅行・キャンプに行く」が155名(44.5%)、「スポーツをする」が62名(17.8%)、「ゲームをする」が98名(28.2%)、「カラオケに行く」が40名(11.5%)、「家でお酒を飲む」が57名(16.4%)、「ゆっくり話をする」が97名(27.9%)、「その他」が12名(3.4%)であった。

父親の収入(N=615)は、「200万円未満」が45名(7.3%)、「200～300万円未満」が56名(9.1%)、「300～500万円未満」が205名(33.3%)、「500～700万円未満」が159名(25.9%)、「700～1000万円未満」が113名(18.4%)、「1000万円以上」が37名

(6.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の収入(N=305)は、「200万円未満」が39名(12.8%)、「200～300万円未満」が33名(10.8%)、「300～500万円未満」が86名(28.2%)、「500～700万円未満」が66名(21.6%)、「700～1000万円未満」が50名(16.4%)、「1000万円以上」が31名(10.2%)であった。

子育てについての考え方に関して(N=688)は、子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が215名(31.3%)、「夫の協力が得られやすい」が313名(45.5%)、「親戚などの協力が得られやすい」が246名(35.8%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が340名(49.4%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってくれていること」が497名(72.2%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が264名(38.4%)、「その他」が51名(7.4%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てについての考え方に関して(N=348)は、子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が157名(45.1%)、「夫の協力が得られやすい」が124名(35.6%)、「親戚などの協力が得られやすい」が132名(37.9%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が142名(40.8%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってくれていること」が296名(85.1%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が152名(43.7%)、「その他」が23名(6.6%)であった。

1番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が49名(7.5%)、「夫の協力が得られやすい」が190名(29.2%)、「親戚などの協力が得られやすい」が84名(12.9%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が97名(14.9%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってくれていること」が171名(26.3%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が32名(4.9%)、「その他」が27名(4.2%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、1番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が33名(9.9%)、「夫の協力が得られやすい」が78名(23.4%)、「親戚などの協力が得られやすい」が42名(12.6%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が29名(8.7%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってくれていること」が119名(35.7%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が22名(6.6%)、「その他」が10名(3.0%)であった。

2番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が79名(13.4%)、「夫の協力が得られやすい」が65名(11.0%)、「親戚などの協力が得られやすい」が75名(12.7%)、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が117名(19.8%)、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってくれていること」が146名(24.7%)、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が91名(15.4%)、「その他」が18名(3.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、2番目に子育てするうえで支えや役に立っているものとして、「労働条件が恵まれている」が57名(18.5%)、「夫の協力が得られやす

い」が26名（8.4%）、「親戚などの協力が得られやすい」が36名（11.7%）、「子育ての楽しさや悩みを共有できる友人がいること」が44名（14.3%）、「保育園や幼稚園が、子どもを預かってくれていること」が84名（27.3%）、「保育所や幼稚園が、子育てを一緒に考えたり励ましたりしてくれること」が51名（16.6%）、「その他」が10名（3.2%）であった。

子育てする上での困難（N=688）は、「寝不足になる（体が疲れる）」が317名（46.1%）、「自分の時間がもてない」が418名（60.8%）、「何かとお金がかかる」が331名（48.1%）、「子どもが思い通りにならずイライラする」が295名（42.9%）、「こんな育て方で、ちゃんと育ってくれるのだろうか不安になる」が363名（52.8%）、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が38名（5.5%）、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が60名（8.7%）、「自分のしている育児が評価されない」が34名（4.9%）、「その他」が40名（5.8%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てする上での困難（N=348）は、「寝不足になる（体が疲れる）」が164名（47.1%）、「自分の時間がもてない」が238名（68.4%）、「何かとお金がかかる」が160名（46.0%）、「子どもが思い通りにならずイライラする」が145名（41.7%）、「こんな育て方で、ちゃんと育ってくれるのだろうか不安になる」が167名（48.0%）、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が14名（4.0%）、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が24名（6.9%）、「自分のしている育児が評価されない」が12名（3.4%）、「その他」が23名（6.6%）であった。

1番目に子育てする上での困難（N=643）は、「寝不足になる（体が疲れる）」が120名（18.7%）、「自分の時間がもてない」が161名（25.0%）、「何かとお金がかかる」が112名（17.4%）、「子どもが思い通りにならずイライラする」が87名（13.5%）、「こんな育て方で、ちゃんと育ってくれるのだろうか不安になる」が132名（20.5%）、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が3名（0.5%）、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が2名（0.3%）、「自分のしている育児が評価されない」が1名（0.2%）、「その他」が25名（3.9%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、1番目に子育てする上での困難（N=326）は、「寝不足になる（体が疲れる）」が61名（18.7%）、「自分の時間がもてない」が101名（31.0%）、「何かとお金がかかる」が59名（18.1%）、「子どもが思い通りにならずイライラする」が38名（11.7%）、「こんな育て方で、ちゃんと育ってくれるのだろうか不安になる」が52名（16.0%）、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が1名（0.3%）、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が2名（0.6%）、「自分のしている育児が評価されない」が0名（0.0%）、「その他」が12名（3.7%）であった。

2番目に子育てする上での困難（N=559）は、「寝不足になる（体が疲れる）」が96名（17.2%）、「自分の時間がもてない」が125名（22.4%）、「何かとお金がかかる」が96名（17.5%）、「子どもが思い通りにならずイライラする」が88名（15.9%）、「こんな育て方で、ちゃんと育ってくれるのだろうか不安になる」が112名（20.0%）、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が8名（1.4%）、「子どもにかまけてばか

り、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が15名（2.7%）、「自分のしている育児が評価されない」が8名（1.4%）、「その他」が8名（1.4%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、2番目に子育てする上での困難（N=277）は、「寝不足になる（体が疲れる）」が54名（19.5%）、「自分の時間がもてない」が65名（23.5%）、「何かとお金がかかる」が39名（14.1%）、「子どもが思い通りにならずイライラする」が37名（13.4%）、「こんな育て方で、ちゃんと育てくれるのだろうか」と不安になる」が63名（22.7%）、「世の中から取り残されて孤立した感じがする」が2名（0.7%）、「子どもにかまけてばかりで、自分の能力や意欲を生かしているという充実感がない」が7名（2.5%）、「自分のしている育児が評価されない」が2名（0.7%）、「その他」が8名（2.9%）であった。

最も子育てする上で頼りになる相談相手（N=677）は、「学生時代からの友人」が49名（7.2%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が39名（5.8%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が12名（1.8%）、「夫を通しての友人」が1名（0.1%）、「近所や地域の人たち」が14名（2.1%）、「仕事を通しての友人」が21名（3.1%）、「趣味を通しての友人」が5名（0.7%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が196名（29.0%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が12名（1.8%）、「夫」が252名（37.2%）、「専門家（医師・保健婦・電話相談など）」が11名（1.6%）、「保育園・幼稚園の先生や職員」が44名（6.5%）、「その他」が9名（1.3%）、「特に誰もいない」が12名（1.8%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、最も子育てする上で頼りになる相談相手（N=341）は、「学生時代からの友人」が27名（7.9%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が12名（3.5%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が4名（1.2%）、「夫を通しての友人」が1名（0.3%）、「近所や地域の人たち」が3名（0.9%）、「仕事を通しての友人」が11名（3.2%）、「趣味を通しての友人」が4名（1.2%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が113名（33.1%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が8名（2.3%）、「夫」が112名（32.8%）、「専門家（医師・保健婦・電話相談など）」が6名（1.8%）、「保育園・幼稚園の先生や職員」が26名（7.6%）、「その他」が3名（0.9%）、「特に誰もいない」が11名（3.2%）であった。

2番目に子育てする上で頼りになる相談相手（N=642）は、「学生時代からの友人」が67名（10.4%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が94名（14.6%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が32名（5.0%）、「夫を通しての友人」が1名（0.2%）、「近所や地域の人たち」が16名（2.5%）、「仕事を通しての友人」が47名（7.3%）、「趣味を通しての友人」が8名（1.2%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が134名（20.9%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が35名（5.5%）、「夫」が105名（16.4%）、「専門家（医師・保健婦・電話相談など）」が10名（1.6%）、「保育園・幼稚園の先生や職員」が90名（14.0%）、「その他」が1名（0.2%）、「特に誰もいない」が2名（0.3%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、2番目に子育てする上で頼りになる相談相手（N=309）は、「学生時代からの友人」が36名（11.7%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が30名（9.7%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が16名（5.2%）、「夫を通しての友人」が0名（0.

0%)、「近所や地域の人たち」が7名(2.3%)、「仕事を通しての友人」が40名(12.9%)、「趣味を通しての友人」が6名(1.9%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が63名(20.4%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が8名(2.6%)、「夫」が38名(12.3%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が4名(1.3%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が59名(19.1%)、「その他」が1名(0.3%)、「特に誰もいない」が1名(0.3%)であった。

3番目に子育てする上で頼りになる相談相手(N=577)は、「学生時代からの友人」が75名(13.0%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が93名(16.1%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が30名(5.2%)、「夫を通しての友人」が2名(0.3%)、「近所や地域の人たち」が21名(3.6%)、「仕事を通しての友人」が49名(8.5%)、「趣味を通しての友人」が8名(1.4%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が84名(14.6%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が47名(8.1%)、「夫」が49名(8.5%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が13名(2.3%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が96名(16.6%)、「その他」が4名(0.7%)、「特に誰もいない」が6名(1.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、3番目に子育てする上で頼りになる相談相手(N=279)は、「学生時代からの友人」が28名(10.0%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が32名(11.5%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が16名(5.7%)、「夫を通しての友人」が1名(0.4%)、「近所や地域の人たち」が13名(4.7%)、「仕事を通しての友人」が34名(12.2%)、「趣味を通しての友人」が6名(2.2%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が34名(12.2%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が19名(6.8%)、「夫」が17名(6.1%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が8名(2.9%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が64名(22.9%)、「その他」が2名(0.7%)、「特に誰もいない」が5名(1.8%)であった。

最も本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=672)は、「学生時代からの友人」が130名(19.3%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が22名(3.3%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が12名(1.8%)、「夫を通しての友人」が2名(0.3%)、「近所や地域の人たち」が8名(1.2%)、「仕事を通しての友人」が43名(6.4%)、「趣味を通しての友人」が7名(1.0%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が147名(21.9%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が7名(1.0%)、「夫」が267名(39.7%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が3名(0.4%)、「保育園・幼稚園の先生や職員」が1名(0.1%)、「その他」が6名(0.9%)、「特に誰もいない」が17名(2.5%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、最も本人が悩んだ時の頼りになる相談相手(N=338)は、「学生時代からの友人」が85名(25.1%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が7名(2.1%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が9名(2.7%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が1名(0.3%)、「仕事を通しての友人」が22名(6.5%)、「趣味を通しての友人」が9名(2.7%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が63名(18.6%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が4名(1.2%)、「夫」が115名(34.0%)、「専門家(医師・保健婦・電話相談など)」が4名(1.2%)、「保育園・幼稚園の先生

や職員」が0名（0.0%）、「その他」が3名（0.9%）、「特に誰もいない」が16名（4.7%）であった。

2番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手（N=598）は、「学生時代からの友人」が134名（22.4%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が45名（7.5%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が27名（4.5%）、「夫を通しての友人」が5名（0.8%）、「近所や地域の人たち」が14名（2.3%）、「仕事を通しての友人」が65名（10.9%）、「趣味を通しての友人」が8名（1.3%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が169名（28.3%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が16名（2.7%）、「夫」が94名（15.7%）、「専門家（医師・保健婦・電話相談など）」が3名（0.5%）、「保育園・幼稚園の先生や職員」が4名（0.7%）、「その他」が8名（1.3%）、「特に誰もいない」が6名（1.0%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、2番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手（N=291）は、「学生時代からの友人」が70名（24.1%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が10名（3.4%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が11名（3.8%）、「夫を通しての友人」が5名（1.7%）、「近所や地域の人たち」が6名（2.1%）、「仕事を通しての友人」が52名（17.9%）、「趣味を通しての友人」が10名（3.4%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が81名（27.8%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が6名（2.1%）、「夫」が30名（10.3%）、「専門家（医師・保健婦・電話相談など）」が2名（0.7%）、「保育園・幼稚園の先生や職員」が1名（0.3%）、「その他」が5名（1.7%）、「特に誰もいない」が2名（0.7%）であった。

3番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手（N=487）は、「学生時代からの友人」が96名（19.7%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が63名（12.9%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が25名（5.1%）、「夫を通しての友人」が4名（0.8%）、「近所や地域の人たち」が10名（2.1%）、「仕事を通しての友人」が61名（12.5%）、「趣味を通しての友人」が17名（3.5%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が94名（19.3%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が21名（4.3%）、「夫」が52名（10.7%）、「専門家（医師・保健婦・電話相談など）」が9名（1.8%）、「保育園・幼稚園の先生や職員」が11名（2.3%）、「その他」が3名（0.6%）、「特に誰もいない」が21名（4.3%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、3番目に本人が悩んだ時の頼りになる相談相手（N=232）は、「学生時代からの友人」が38名（16.4%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が20名（8.6%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が12名（5.2%）、「夫を通しての友人」が4名（2.2%）、「近所や地域の人たち」が8名（3.4%）、「仕事を通しての友人」が39名（16.8%）、「趣味を通しての友人」が9名（3.9%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が51名（22.0%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が8名（3.4%）、「夫」が19名（8.2%）、「専門家（医師・保健婦・電話相談など）」が5名（2.2%）、「保育園・幼稚園の先生や職員」が4名（1.7%）、「その他」が1名（0.4%）、「特に誰もいない」が13名（5.6%）であった。

育児サービスの要望に関しては、「乳児保育（出産後・出産休暇後できるだけ早く預かってくれる）」（N=617）は、「特に必要」が148名（24.0%）、「できれば必要」が277

名(44.9%)、「現状でよい」が148名(24.0%)、「必要ない」が44名(7.1%)であった。「病児保育(子どもが軽い病気の時にも預かってくれる)」(N=626)は、「特に必要」が186名(29.7%)、「できれば必要」が280名(44.7%)、「現状でよい」が113名(18.1%)、「必要ない」が47名(7.5%)であった。「障害児保育(一般の園で障害児を預かってくれる)」(N=621)は、「特に必要」が216名(34.8%)、「できれば必要」が271名(43.6%)、「現状でよい」が116名(18.7%)、「必要ない」が18名(2.9%)であった。「早期保育(朝の保育開始時間を早める)」(N=621)は、「特に必要」が101名(16.3%)、「できれば必要」が232名(37.4%)、「現状でよい」が243名(39.1%)、「必要ない」が45名(7.2%)であった。「延長保育・預かり保育(保育終了時間を延ばす)」(N=637)は、「特に必要」が191名(30.0%)、「できれば必要」が234名(36.7%)、「現状でよい」が190名(29.8%)、「必要ない」が22名(3.5%)であった。「夜間保育(夜間も子どもを預かってくれる)」(N=624)は、「特に必要」が90名(14.4%)、「できれば必要」が222名(35.6%)、「現状でよい」が230名(36.9%)、「必要ない」が82名(13.1%)であった。「休日保育(日曜・祝日にも子どもを預かってくれる)」(N=631)は、「特に必要」が129名(20.4%)、「できれば必要」が256名(40.6%)、「現状でよい」が174名(27.6%)、「必要ない」が72名(11.4%)であった。「一時保育(一時的・緊急的に子どもを預かってくれる)」(N=632)は、「特に必要」が199名(31.5%)、「できれば必要」が290名(45.9%)、「現状でよい」が123名(19.5%)、「必要ない」が20名(3.2%)であった。「親子で参加する育児教室事業」(N=618)は、「特に必要」が43名(7.0%)、「できれば必要」が192名(31.1%)、「現状でよい」が331名(53.6%)、「必要ない」が52名(8.4%)であった。「電話による相談事業」(N=615)は、「特に必要」が49名(8.0%)、「できれば必要」が165名(26.8%)、「現状でよい」が356名(57.9%)、「必要ない」が45名(7.3%)であった。「家庭訪問による相談事業」(N=615)は、「特に必要」が30名(4.9%)、「できれば必要」が156名(25.4%)、「現状でよい」が351名(57.1%)、「必要ない」が78名(12.7%)であった。「児童手当などの増額・期間延長」(N=651)は、「特に必要」が410名(63.0%)、「できれば必要」が164名(25.2%)、「現状でよい」が70名(10.8%)、「必要ない」が7名(1.1%)であった。「子どもの医療費の減免の充実」(N=653)は、「特に必要」が489名(74.9%)、「できれば必要」が118名(18.1%)、「現状でよい」が42名(6.4%)、「必要ない」が4名(0.6%)であった。「その他」(N=25)は、「特に必要」が23名(92.0%)、「できれば必要」が1名(4.0%)、「現状でよい」が0名(0.0%)、「必要ない」が1名(4.0%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、育児サービスの要望に関しては、「乳児保育(出産後・出産休暇後できるだけ早く預かってくれる)」(N=313)は、「特に必要」が94名(30.0%)、「できれば必要」が131名(41.9%)、「現状でよい」が73名(23.3%)、「必要ない」が15名(4.8%)であった。「病児保育(子どもが軽い病気の時にも預かってくれる)」(N=321)は、「特に必要」が141名(43.9%)、「できれば必要」が131名(40.8%)、「現状でよい」が39名(12.1%)、「必要ない」が10名(3.1%)であった。「障害児保育(一般の園で障害児を預かってくれる)」(N=313)は、「特に必要」が116名(37.1%)、「できれば必要」が139名(44.4%)、「現状でよい」が54名(17.3%)、「必要ない」

が4名(1.3%)であった。「早期保育(朝の保育開始時間を早める)」(N=314)は、「特に必要」が69名(22.0%)、「できれば必要」が120名(38.2%)、「現状でよい」が114名(36.3%)、「必要ない」が11名(3.5%)であった。「延長保育・預かり保育(保育終了時間を延ばす)」(N=323)は、「特に必要」が111名(34.4%)、「できれば必要」が111名(34.4%)、「現状でよい」が92名(28.5%)、「必要ない」が9名(2.8%)であった。「夜間保育(夜間も子どもを預かってくれる)」(N=313)は、「特に必要」が58名(18.5%)、「できれば必要」が121名(38.7%)、「現状でよい」が103名(32.9%)、「必要ない」が31名(9.9%)であった。「休日保育(日曜・祝日にも子どもを預かってくれる)」(N=322)は、「特に必要」が95名(29.5%)、「できれば必要」が130名(40.4%)、「現状でよい」が74名(23.0%)、「必要ない」が23名(7.1%)であった。「一時保育(一時的・緊急的に子どもを預かってくれる)」(N=316)は、「特に必要」が101名(32.0%)、「できれば必要」が138名(43.7%)、「現状でよい」が67名(21.2%)、「必要ない」が10名(3.2%)であった。「親子で参加する育児教室事業」(N=308)は、「特に必要」が21名(6.8%)、「できれば必要」が86名(27.9%)、「現状でよい」が177名(57.5%)、「必要ない」が24名(7.8%)であった。「電話による相談事業」(N=308)は、「特に必要」が32名(10.4%)、「できれば必要」が84名(27.3%)、「現状でよい」が171名(55.5%)、「必要ない」が21名(6.8%)であった。「家庭訪問による相談事業」(N=305)は、「特に必要」が21名(6.9%)、「できれば必要」が65名(21.3%)、「現状でよい」が184名(60.3%)、「必要ない」が35名(11.5%)であった。「児童手当などの増額・期間延長」(N=330)は、「特に必要」が226名(68.5%)、「できれば必要」が74名(22.4%)、「現状でよい」が28名(8.5%)、「必要ない」が2名(0.6%)であった。「子どもの医療費の減免の充実」(N=329)は、「特に必要」が262名(79.6%)、「できれば必要」が52名(15.8%)、「現状でよい」が12名(3.6%)、「必要ない」が3名(0.9%)であった。

子育てする上で最も頻繁に頼む人(N=674)は、「学生時代からの友人」が7名(1.0%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が11名(1.6%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が6名(0.9%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が13名(1.9%)、「仕事を通しての友人」が6名(0.9%)、「趣味を通しての友人」が4名(0.6%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が309名(45.8%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が105名(15.6%)、「夫」が174名(25.8%)、「有料の保育サービス」が16名(2.4%)、「その他」が9名(1.3%)、「特に誰もいない」が14名(2.1%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てする上で最も頻繁に頼む人(N=338)は、「学生時代からの友人」が4名(1.2%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が3名(0.9%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が4名(1.2%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が7名(2.1%)、「仕事を通しての友人」が5名(1.5%)、「趣味を通しての友人」が2名(0.6%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が168名(49.7%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が28名(8.3%)、「夫」が86名(25.4%)、「有料の保育サービス」が7名(2.1%)、「その他」が8名(2.4%)、「特に誰もいない」が16名(4.7%)であった。

子育てする上で2番目に頻繁に頼む人(N=583)は、「学生時代からの友人」が18名(3.1%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が64名(11.0%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が14名(2.4%)、「夫を通しての友人」が2名(0.3%)、「近所や地域の人たち」が25名(4.3%)、「仕事を通しての友人」が11名(1.9%)、「趣味を通しての友人」が2名(0.3%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が120名(20.6%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が112名(19.2%)、「夫」が164名(28.1%)、「有料の保育サービス」が20名(3.4%)、「その他」が7名(1.2%)、「特に誰もいない」が24名(4.1%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てする上で2番目に頻繁に頼む人(N=271)は、「学生時代からの友人」が12名(4.4%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が20名(7.4%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が5名(1.8%)、「夫を通しての友人」が1名(0.4%)、「近所や地域の人たち」が12名(4.4%)、「仕事を通しての友人」が9名(3.3%)、「趣味を通しての友人」が4名(1.5%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が53名(19.6%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が45名(16.6%)、「夫」が78名(28.8%)、「有料の保育サービス」が14名(5.2%)、「その他」が4名(1.5%)、「特に誰もいない」が14名(5.2%)であった。

子育てする上で3番目に頻繁に頼む人(N=404)は、「学生時代からの友人」が25名(6.2%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が56名(13.9%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が29名(7.2%)、「夫を通しての友人」が0名(0.0%)、「近所や地域の人たち」が30名(7.4%)、「仕事を通しての友人」が13名(3.2%)、「趣味を通しての友人」が1名(0.2%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が62名(15.3%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が62名(15.3%)、「夫」が68名(16.8%)、「有料の保育サービス」が13名(3.2%)、「その他」が2名(0.5%)、「特に誰もいない」が43名(10.6%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てする上で3番目に頻繁に頼む人(N=165)は、「学生時代からの友人」が11名(6.7%)、「保育園・幼稚園を通しての友人」が16名(9.7%)、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が13名(7.9%)、「夫を通しての友人」が2名(1.2%)、「近所や地域の人たち」が10名(6.1%)、「仕事を通しての友人」が6名(3.6%)、「趣味を通しての友人」が0名(0.0%)、「自分の親やきょうだいや親戚」が18名(10.9%)、「夫の親やきょうだいや親戚」が29名(17.6%)、「夫」が17名(10.3%)、「有料の保育サービス」が14名(8.5%)、「その他」が0名(0.0%)、「特に誰もいない」が29名(17.6%)であった。

自分にとっての子どもの存在(N=688)は、「心の安らぎを与えてくれる」が309名(44.9%)、「いないとさみしい」が332名(48.3%)、「生活を充実させてくれる」が193名(28.1%)、「夫婦の関係をつなぐ」が128名(18.6%)、「社会の担い手となる」が7名(1.0%)、「生きがい」が174名(25.3%)、「自分を成長させてくれる」が296名(43.0%)、「自分の分身」が64名(9.3%)、「相談相手・話し相手」が54名(7.8%)、「老後の面倒をみてもらう」が4名(0.6%)、「家を継ぐ」が6名(0.9%)、「いざというときにあてになる」が10名(1.5%)、「一人の独立した個人」が119名(17.3%)、「生活に楽しさを与えてくれる」が422名(61.3%)、「その他」が8名(1.2%)であっ

た。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、自分にとっての子どもの存在 (N=348) は、「心の安らぎを与えてくれる」が176名 (50.6%)、「いないとさみしい」が147名 (42.2%)、「生活を充実させてくれる」が99名 (28.4%)、「夫婦の関係をつなぐ」が67名 (19.3%)、「社会の担い手となる」が5名 (1.4%)、「生きがい」が89名 (25.6%)、「自分を成長させてくれる」が150名 (43.1%)、「自分の分身」が33名 (9.5%)、「相談相手・話し相手」が25名 (7.2%)、「老後の面倒をみてもらう」が1名 (0.3%)、「家を継ぐ」が1名 (0.3%)、「いざというときにあてになる」が4名 (1.1%)、「一人の独立した個人」が67名 (19.3%)、「生活に楽しさを与えてくれる」が202名 (58.0%)、「その他」が5名 (1.4%)であった。

子育てに関する意見に対しては、「子どもが小さいうちは育児に専念すべきである」(N=672) は、「そう思う」が212名 (31.5%)、「ややそう思う」が250名 (37.2%)、「あまり思わない」が114名 (17.0%)、「そう思わない」が96名 (14.3%)であった。「女性が仕事をするなら家事・育児の責任を果たした上ですべきである」(N=671) は、「そう思う」が94名 (14.0%)、「ややそう思う」が224名 (33.4%)、「あまり思わない」が213名 (31.7%)、「そう思わない」が140名 (20.9%)であった。「育児は父母が対等にすべきである」(N=671) は、「そう思う」が373名 (55.6%)、「ややそう思う」が186名 (27.7%)、「あまり思わない」が97名 (14.5%)、「そう思わない」が15名 (2.2%)であった。「子育てと家事だけで一生を終わらせたくない」(N=673) は、「そう思う」が434名 (64.5%)、「ややそう思う」が133名 (19.8%)、「あまり思わない」が76名 (11.3%)、「そう思わない」が30名 (4.5%)であった。「子離れはできるだけ早くした方がいい」(N=673) は、「そう思う」が158名 (23.5%)、「ややそう思う」が219名 (32.5%)、「あまり思わない」が245名 (36.4%)、「そう思わない」が51名 (7.6%)であった。「育児期は子どもに自分の人生を犠牲にされるのも仕方がない」(N=668) は、「そう思う」が174名 (26.0%)、「ややそう思う」が260名 (38.9%)、「あまり思わない」が137名 (20.5%)、「そう思わない」が97名 (14.5%)であった。「育児によって母親は成長する」(N=673) は、「そう思う」が535名 (79.5%)、「ややそう思う」が114名 (16.9%)、「あまり思わない」が22名 (3.3%)、「そう思わない」が2名 (0.3%)であった。「できるだけ、自分の生き方・生活を大切にしたい」(N=669) は、「そう思う」が295名 (44.1%)、「ややそう思う」が265名 (39.6%)、「あまり思わない」が86名 (12.9%)、「そう思わない」が23名 (3.4%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子育てに関する意見に対しては、「子どもが小さいうちは育児に専念すべきである」(N=340) は、「そう思う」が66名 (19.4%)、「ややそう思う」が126名 (37.1%)、「あまり思わない」が78名 (22.9%)、「そう思わない」が70名 (20.6%)であった。「女性が仕事をするなら家事・育児の責任を果たした上ですべきである」(N=340) は、「そう思う」が32名 (9.4%)、「ややそう思う」が111名 (32.6%)、「あまり思わない」が105名 (30.9%)、「そう思わない」が92名 (27.1%)であった。「育児は父母が対等にすべきである」(N=340) は、「そう思う」が208名 (61.2%)、「ややそう思う」が88名 (25.9%)、「あまり思わない」が34名 (10.0%)、「そう思わない」が10名 (2.9%)であった。「子育てと家事だけで一生を終わらせたくない」(N=340) は、「そう思う」が220名 (64.7%)、「ややそう思う」が67名 (19.7%)、

「あまり思わない」が34名（10.0%）、「そう思わない」が19名（5.6%）であった。「子離れはできるだけ早くした方がいい」（N=340）は、「そう思う」が73名（21.5%）、「ややそう思う」が117名（34.4%）、「あまり思わない」が122名（35.9%）、「そう思わない」が28名（8.2%）であった。「育児期は子どもに自分の人生を犠牲にされるのも仕方がない」（N=337）は、「そう思う」が84名（24.9%）、「ややそう思う」が126名（37.4%）、「あまり思わない」が69名（20.5%）、「そう思わない」が58名（17.2%）であった。「育児によって母親は成長する」（N=340）は、「そう思う」が274名（80.6%）、「ややそう思う」が54名（15.9%）、「あまり思わない」が10名（2.9%）、「そう思わない」が2名（0.6%）であった。「できるだけ、自分の生き方・生活を大切にしたい」（N=337）は、「そう思う」が152名（45.1%）、「ややそう思う」が136名（40.4%）、「あまり思わない」が39名（11.6%）、「そう思わない」が10名（3.0%）であった。

Ⅱ. 少子化の要因と地域分析に関する調査研究（〇市における報告）

【調査対象地域・調査対象の選定方法等】

調査の対象は、北海道内において、合計特殊出生率の高い地域の〇市（合計特殊出生率：1.47）を選定し、その地域の保育園および幼稚園に通園している子どもの母親 800名とした。

【研究方法】

調査方法は、調査票を作成し、各保育所および幼稚園の担当者を通じ、本人への配布・回収を行った。

調査内容は、1) 家庭と住まいの状況、2) 母親自身の状況、3) 夫の家事・育児の参加状況、4) 子育てについての考え方とした。

家庭と住まいの状況に関しては、現在の子ども数、将来の予定する子ども数、理想として育てたい子ども数、育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由、家族形態、母親の実家との距離、父親の実家との距離、住居のタイプ、居住年数等とした。

母親自身の状況に関しては、母親の年齢、母親の教育歴、母親の結婚時の年齢、母親育児体験、母親の就労の有無、母親の職歴、母親の社会的活動、母親の平日に使用している自由時間、母親の自由時間の活動、母親の交友関係、専業主婦に対する仕事に関する要望、母親の雇用形態、母親の職業、母親の出勤時間、母親の帰宅時間、母親の収入（月平均）、母親の仕事についての悩みや不満、母親の就労観、母親の就労継続の意思等とした。

夫の家事・育児の参加状況に関しては、家事・育児への参加状況、夫に対する評価、父親の年齢、父親の雇用形態、父親の職業、出勤時間、帰宅時間、夫婦での共同行動、家族での共同行動、父親の収入等とした。

子育てについての考え方に関しては、子育てする上での支え、子育てする上での困難、子育てする上での相談相手、本人の問題に対しての相談相手、育児サービスの要望、子育てする上でのサポート状況、自分にとっての子どもの存在、子育てに関する意見に対して等を調査項目とした。

解析に当たり、まずすべての調査項目に対し記述統計で検討した。さらに、1) 少子化現象と母親自身の子育ての意識や育児困難の関連性を検討すること、2) 少子化現象と地域間格差について検討した。

なお、調査対象者800名のうち、回収ができた733名（回収率91.6%）の資料を分析した。

上記の通り実施要綱に従い調査を実施したが、その実施は平成13年10月上旬から下旬までの3週間の間に行い、対象者から調査票が回収された。

回収された調査票は「分析専門委員会」において集計と解析を行い、最終的に本委員会が本報告書を作成した。なお、集計ならびに解析は青森県立保健大学健康科学部のSPSSを用いた。

【研究結果】

1. 基本属性等の調査項目の分布

家庭と住まいの状況については、子どもの数 (N=733) が、平均2.03人、標準偏差 0.88であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、子どもの数 (N=625) が、平均1.98人、標準偏差0.94であった。

第1子の有無について (N=731) は、「有り」が 731名 (100.0%)、「無し」が0名 (0.0%)であった。第2子の有無 (N=731) は、「有り」537名 (73.5%)、「無し」194名 (26.5%)であった。第3子の有無 (N=537) は、「有り」183名 (25.0%)、「無し」354名 (75.0%)であった。第4子の有無 (N=183) は、「有り」35名 (4.8%)、「無し」148名 (95.2%)であった。第5子の有無 (N=35) は、「有り」8名 (0.1%)、「無し」27名 (99.9%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、第1子の有無について (N=625) は、「有り」が625名 (100.0%)、「無し」が0名 (0.0%)であった。第2子の有無 (N=625) は、「有り」438名 (70.1%)、「無し」187名 (29.9%)であった。第3子の有無 (N=438) は、「有り」149名 (23.8%)、「無し」289名 (76.2%)であった。第4子の有無 (N=149) は、「有り」30名 (4.8%)、「無し」119名 (95.2%)であった。第5子の有無 (N=30) は、「有り」7名 (1.1%)、「無し」23名 (98.9%)であった。

第1子の平均年齢について (N=731) は、平均が6.65歳、標準偏差が 3.91であった。第2子の平均年齢 (N=537) は、平均4.70歳、標準偏差3.71であった。第3子の平均年齢 (N=183) は、平均3.77歳、標準偏差2.98であった。第4子の平均年齢 (N=35) は、平均3.77歳、標準偏差3.41であった。第5子の平均年齢 (N=8) は、平均4.33歳、標準偏差3.83であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、第1子の平均年齢について (N=625) は、平均が6.54歳、標準偏差が4.01であった。第2子の平均年齢 (N=438) は、平均4.73歳、標準偏差3.86であった。第3子の平均年齢 (N=149) は、平均3.82歳、標準偏差3.10であった。第4子の平均年齢 (N=30) は、平均3.55歳、標準偏差3.48であった。第5子の平均年齢 (N=7) は、平均4.75歳、標準偏差3.87であった。

育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由 (N= 327) は、その肯定率に着目すると、「子どもを育てるのにお金がかかる」が 223名 (68.2%)、「子どもを育てることが体力的につらい」が162名 (49.5%)、「仕事との両立がむずかしい」が148名 (45.3%)、「今の世の中や将来に対して不安である」が 114名 (34.9%)、「夫の協力・理解が少ない」が69名 (21.1%)、「家が狭い」が54名 (16.5%)、「親の協力・理解が少ない」が32名 (9.8%)、「子どもがなかなか産まれない」が30名 (9.2%)、「子どもを育てることが精神的負担である」が19名 (5.8%)、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が4名 (1.2%)の順となっていた。なお、「その他」は54名 (16.5%)であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、育てたい子ども数と実際の子どもの数の違いの理由 (N= 287) は、その肯定率に着目すると、「子どもを育てるのにお金がかかる」が193名 (67.2%)、「仕事との両立がむずかしい」が145名 (50.5%)、「子どもを育てることが体力的につらい」が138名 (48.1%)、「今の世の中や将来に対して不安である」が97名 (33.8%)、「夫の協力・理解が少ない」が57名 (19.9%)、「家が狭い」が45名 (15.7%)、「親の協力・理解が少ない」が28名 (9.8%)、「子どもがなかなか産まれない」が27名 (9.4%)、「子どもを育てることが精神的負担である」

が15名（5.2%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が4名（1.4%）の順となっていた。なお、「その他」は48名（16.7%）であった。

育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由の中で1番目に障害となっていること（N=442）、「子どもを育てるのにお金がかかる」が175名（39.6%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が82名（18.6%）、「仕事との両立がむずかしい」が65名（14.7%）、「子どもがなかなか産まれない」が31名（7.0%）、「夫の協力・理解が少ない」が21名（4.8%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が17名（3.8%）、「親の協力・理解が少ない」が7名（1.6%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が6名（1.4%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が3名（0.7%）、「家が狭い」が0名（0.0%）の順となっていた。なお、「その他」は35名（7.0%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由の中で1番目に障害となっていること（N=382）、「子どもを育てるのにお金がかかる」が152名（39.8%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が65名（17.0%）、「仕事との両立がむずかしい」が62名（16.2%）、「子どもがなかなか産まれない」が26名（6.8%）、「夫の協力・理解が少ない」が17名（4.5%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が17名（4.5%）、「親の協力・理解が少ない」が6名（1.6%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が3名（0.8%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が3名（0.8%）、「家が狭い」が0名（0.0%）の順となっていた。なお、「その他」は31名（8.1%）であった。

育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由の中で2番目に障害となっていること（N=393）、「子どもを育てるのにお金がかかる」が89名（22.6%）、「仕事との両立がむずかしい」が86名（21.9%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が65名（16.5%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が65名（16.5%）、「夫の協力・理解が少ない」が35名（8.9%）、「家が狭い」が24名（6.1%）、「子どもがなかなか産まれない」が11名（2.8%）、「親の協力・理解が少ない」が7名（1.8%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が5名（1.3%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が1名（0.3%）の順となっていた。なお、「その他」は5名（1.3%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、育てたい子ども数と実際の子ども数の違いの理由の中で2番目に障害となっていること（N=339）、「仕事との両立がむずかしい」が82名（24.2%）、「子どもを育てるのにお金がかかる」が76名（22.4%）、「今の世の中や将来に対して不安である」が53名（15.6%）、「子どもを育てることが体力的につらい」が53名（15.6%）、「夫の協力・理解が少ない」が29名（8.6%）、「家が狭い」が21名（6.2%）、「子どもがなかなか産まれない」が9名（2.7%）、「親の協力・理解が少ない」が6名（1.8%）、「子どもを育てることが精神的負担である」が4名（1.2%）、「子どもを産み育てることが困難とはなっていない」が1名（0.3%）の順となっていた。なお、「その他」は5名（1.5%）であった。

家族形態（N=728）は、「父母+子」が493名（67.7%）、「父母+子+祖父母」118名（16.2%）、「母+子」71名（9.8%）、「母+子+祖父母」33名（4.5%）、「その他」8名（1.1%）、「父+子」4名（0.5%）、「父+子+祖父母」1名（0.1%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、家族形態（N=622）

は、「父母+子」が411名（66.1%）、「父母+子+祖父母」96名（15.4%）、「母+子」71名（11.4%）、「母+子+祖父母」32名（5.1%）、「その他」8名（1.3%）、「父+子」3名（0.5%）、「父+子+祖父母」1名（0.2%）であった。

母親の実家との距離（N=725）は、「一緒に住んでいる」が54名（7.4%）、「歩いていける距離」が141名（19.4%）、「車や電車で1時間以内」が345名（47.6%）、「車や電車で1時間を超える道内」が129名（17.8%）、「北海道外」が39名（5.4%）、「その他」が17名（2.3%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の実家との距離（N=618）は、「一緒に住んでいる」が47名（7.6%）、「歩いていける距離」が128名（20.7%）、「車や電車で1時間以内」が300名（48.5%）、「車や電車で1時間を超える道内」が94名（15.2%）、「北海道外」が33名（5.3%）、「その他」が16名（2.6%）であった。

父親の実家との距離（N=658）は、「一緒に住んでいる」が81名（12.3%）、「歩いていける距離」が114名（17.3%）、「車や電車で1時間以内」が265名（40.3%）、「車や電車で1時間を超える道内」が116名（17.6%）、「北海道外」が50名（7.6%）、「その他」が32名（4.9%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、父親の実家との距離（N=552）は、「一緒に住んでいる」が71名（12.9%）、「歩いていける距離」が99名（17.9%）、「車や電車で1時間以内」が230名（41.7%）、「車や電車で1時間を超える道内」が85名（15.4%）、「北海道外」が39名（7.1%）、「その他」が28名（5.1%）であった。

住居のタイプ（N=729）は、「一戸建て持ち家」が359名（49.2%）、「分譲マンション等の持ち家」が2名（0.3%）、「借家・アパート・マンション（賃貸）」が198名（27.2%）、「公営（道・市・町営・雇用促進）住宅」が90名（12.3%）、「社宅・官舎」が37名（5.1%）、「公社・公団住宅（賃貸）」が3名（0.4%）、「間借り」が2名（0.3%）、「親等の家に同居」が29名（4.0%）、「その他」が9名（1.2%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、住居のタイプ（N=622）は、「一戸建て持ち家」が299名（48.1%）、「分譲マンション等の持ち家」が2名（0.3%）、「借家・アパート・マンション（賃貸）」が180名（28.9%）、「公営（道・市・町営・雇用促進）住宅」が81名（13.0%）、「社宅・官舎」が22名（3.5%）、「公社・公団住宅（賃貸）」が3名（0.5%）、「間借り」が2名（0.3%）、「親等の家に同居」が25名（4.0%）、「その他」が8名（1.3%）であった。

居住年数（N=729）は、「1年未満」が88名（12.1%）、「1～3年未満」が190名（26.1%）、「3～5年未満」が156名（21.4%）、「5年以上」が295名（40.5%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、居住年数（N=622）は、「1年未満」が71名（11.4%）、「1～3年未満」が157名（25.2%）、「3～5年未満」が135名（21.7%）、「5年以上」が259名（41.6%）であった。

母親自身の状況に関しては、母親の年齢（N=730）は、「10代」が2名（0.3%）、「20～25歳未満」が23名（3.2%）、「25～30歳未満」が133名（18.2%）、「30～35歳未満」288名（39.5%）、「35～40歳未満」が210名（28.8%）、「40歳以上」が74名（10.1%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の年齢（N=623）は、「10代」が2名（0.3%）、「20～25歳未満」が22名（3.5%）、「25～3

0歳未満」が123名（19.7%）、「30～35歳未満」250名が（40.1%）、「35～40歳未満」が165名（26.5%）、「40歳以上」が61名（9.8%）であった。

母親の教育歴（N=728）は、「中学校卒業」が55名（7.6%）、「高等学校卒業」が352名（48.4%）、「専門学校卒業」が139名（19.1%）、「短期大学卒業」が128名（17.6%）、「四年制大学卒業」が51名（7.0%）、「大学院卒業」が3名（0.4%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の教育歴（N=621）は、「中学校卒業」が53名（8.5%）、「高等学校卒業」が299名（48.1%）、「専門学校卒業」が121名（19.5%）、「短期大学卒業」が105名（16.9%）、「四年制大学卒業」が41名（6.6%）、「大学院卒業」が2名（0.3%）であった。

母親の結婚時の年齢（N=720）は、「10代」が33名（4.6%）、「20～25歳未満」が317名（44.0%）、「25～30歳未満」が305名（42.4%）、「30～35歳未満」が49名（6.8%）、「35～40歳未満」が16名（2.2%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の結婚時の年齢（N=613）は、「10代」が31名（5.1%）、「20～25歳未満」が270名（44.0%）、「25～30歳未満」が257名（41.9%）、「30～35歳未満」が44名（7.2%）、「35～40歳未満」が11名（1.8%）であった。

自分の子どもができるまでに他の子どもを抱いたり遊んだりしたことの有無（N=728）は、「よくあった」が317名（43.5%）、「たまにあった」が305名（41.9%）、「まったくない」が106名（14.6%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、自分の子どもができるまでに他の子どもを抱いたり遊んだりしたことの有無（N=622）は、「よくあった」が279名（44.9%）、「たまにあった」が255名（41.0%）、「まったくない」が88名（14.1%）であった。

自分の子どもができるまでに他の子どもに食事を食べさせたり（ミルクを飲ませたり）、おむつを換えたりしたことの有無（N=729）は、「よくあった」が180名（24.7%）、「たまにあった」が249名（34.2%）、「まったくない」が300名（41.2%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、自分の子どもができるまでに他の子どもに食事を食べさせたり（ミルクを飲ませたり）、おむつを換えたりしたことの有無（N=622）は、「よくあった」が167名（26.8%）、「たまにあった」が206名（33.1%）、「まったくない」が249名（40.0%）であった。

母親の就労の有無（N=729）は、「有り」が591名（81.1%）、「無し」が138名（18.9%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の就労の有無（N=622）は、「有り」が567（91.2%）、「無し」が55名（8.8%）であった。

母親の職歴（N=722）は、「仕事をしていたが結婚がきっかけでやめた」が141名（19.5%）、「仕事をしていたが出産がきっかけでやめた」が112名（15.5%）、「仕事をしていたが結婚・出産以外の理由でやめた」が21名（2.9%）、「これまで仕事についていない」が4名（0.6%）、「現在も仕事を続けている（育児などの休暇後に仕事復帰した場合も含む）」が404名（56.0%）、「その他」が40名（5.5%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の職歴（N=615）は、「仕事をしていたが結婚がきっかけでやめた」が90名（14.6%）、「仕事をしていたが出産がきっかけでやめた」が76名（12.4%）、「仕事をしていたが結婚・出産以外の理由でやめた」が14名（2.3%）、「これまで仕事についていない」が3名（0.5%）、「現在も仕

事を続けている（育児などの休暇後に仕事復帰した場合も含む）」が394名（64.1%）、
「その他」が38名（6.2%）であった。

社会的活動（N=733）は、「趣味・教養に関する習い事やサークル」が135名（18.4%）、
「ボランティア活動」が11名（1.5%）、「PTAや地域活動」が165名（22.5%）、「育児・子育てサークル」が44名（6.0%）、
「その他」が37名（5.0%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、社会的活動（N=626）は、
「趣味・教養に関する習い事やサークル」が100名（16.0%）、「ボランティア活動」が9名（1.4%）、
「PTAや地域活動」が143名（22.8%）、「育児・子育てサークル」が28名（4.5%）、
「その他」が32名（5.1%）であった。

母親の平日に使用している自由時間（N=725）は、「まったくない」が53名（7.3%）、
「30分」が117名（16.1%）、「1時間」が201名（27.7%）、「2時間」が194名（26.8%）、
「3時間」が90名（12.4%）、「4時間」が33名（4.6%）、「5時間」が24名（3.3%）、
「6時間以上」が13名（1.8%）となっていた。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、
母親の平日に使用している自由時間（N=618）は、「まったくない」が49名（7.9%）、
「30分」が106名（17.2%）、「1時間」が182名（29.4%）、
「2時間」が161名（26.1%）、「3時間」が75名（12.1%）、
「4時間」が24名（3.9%）、
「5時間」が13名（2.1%）、
「6時間以上」が8名（1.3%）となっていた。

母親の自由時間の活動（N=733）は、「テレビを見たりラジオを聞く」が505名（68.9%）、
「新聞を読む」が306名（41.7%）、
「雑誌や本を読む」が394名（53.8%）、
「何もしないでのんびりしている」が223名（30.4%）、
「友達などに電話をかけたり手紙を書く」が210名（28.6%）、
「近所・友達の家に出かける」が137名（18.7%）、
「地域活動や社会活動をする」が11名（1.5%）、
「買い物に出かける・散歩する」が207名（28.2%）、
「資格・趣味のための学習をする」が59名（8.0%）、
「習い事に出かける」が16名（2.2%）、
「スポーツに出かける」が61名（8.3%）、
「カラオケに行く」が23名（3.1%）、
「パチンコに行く」が24名（3.3%）、
「お酒を飲みに行く」が20名（2.7%）、
「その他」が41名（5.6%）となっていた。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、
母親の自由時間の活動（N=626）は、「テレビを見たりラジオを聞く」が426名（68.1%）、
「新聞を読む」が250名（39.9%）、
「雑誌や本を読む」が329名（52.6%）、
「何もしないでのんびりしている」が188名（30.0%）、
「友達などに電話をかけたり手紙を書く」が176名（28.1%）、
「近所・友達の家に出かける」が117名（18.7%）、
「地域活動や社会活動をする」が8名（1.3%）、
「買い物に出かける・散歩する」が170名（27.2%）、
「資格・趣味のための学習をする」が50名（8.0%）、
「習い事に出かける」が14名（2.2%）、
「スポーツに出かける」が34名（5.4%）、
「カラオケに行く」が23名（3.7%）、
「パチンコに行く」が23名（3.7%）、
「お酒を飲みに行く」が20名（3.2%）、
「その他」が34名（5.4%）となっていた。

母親の交友関係（N=733）は、「学生時代からの友人」が465名（63.4%）、
「保育園・幼稚園を通しての友人」が288名（39.3%）、
「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が142名（19.4%）、
「夫を通しての友人」が92名（12.6%）、
「近所や地域の人たち」が159名（21.7%）、
「仕事を通しての友人」が385名（52.5%）、
「趣味を通して

の友人」が64名（8.7%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が434名（59.2%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が216名（29.5%）、「その他」が17名（2.3%）、「家族以外にあまりつき合いはない」が19名（2.6%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の交友関係（N=626）は、「学生時代からの友人」が409名（65.3%）、「保育園・幼稚園を通しての友人」が213名（34.0%）、「保育園・幼稚園以外の子どもを通しての友人」が110名（17.6%）、「夫を通しての友人」が81名（12.9%）、「近所や地域の人たち」が118名（18.8%）、「仕事を通しての友人」が364名（58.1%）、「趣味を通しての友人」が51名（8.1%）、「自分の親やきょうだいや親戚」が369名（58.9%）、「夫の親やきょうだいや親戚」が176名（28.1%）、「その他」が14名（2.2%）、「家族以外にあまりつき合いはない」が17名（2.7%）であった。

専業主婦に対する仕事に関する要望（N=135）は、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもフルタイムで働きたい」が8名（5.9%）、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもフルタイムで働きたい」が14名（10.4%）、「末子が3歳を過ぎた頃にフルタイムで働きたい」が4名（3.0%）、「末子が3歳を過ぎた頃にパートタイムで働きたい」が15名（11.1%）、「末子が小学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が8名（5.9%）、「末子が小学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が47名（34.8%）、「末子が中学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が3名（2.2%）、「末子が中学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が13名（9.6%）、「特に働こうとは思わない」が19名（14.1%）、「その他」が4名（3.0%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、専業主婦に対する仕事に関する要望（N=53）は、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもフルタイムで働きたい」が7名（13.2%）、「子どもを預かってくれるところがあれば今すぐにでもフルタイムで働きたい」が11名（20.8%）、「末子が3歳を過ぎた頃にフルタイムで働きたい」が4名（7.5%）、「末子が3歳を過ぎた頃にパートタイムで働きたい」が9名（17.0%）、「末子が小学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が3名（5.7%）、「末子が小学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が13名（24.5%）、「末子が中学校に入った頃にフルタイムで働きたい」が2名（3.8%）、「末子が中学校に入った頃にパートタイムで働きたい」が1名（1.9%）、「特に働こうとは思わない」が1名（1.9%）、「その他」が2名（3.8%）であった。

母親の雇用形態（N=595）は、「民間企業の正社員・正職員（常勤雇用）」が150名（25.2%）、「公務・団体の正職員（常勤雇用）」が110名（18.5%）、「臨時雇用（季節雇用も含む）」が34名（5.7%）、「パートタイマー」が246名（41.3%）、「無職」が1名（0.2%）、「その他」が54名（9.1%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の雇用形態（N=571）は、「民間企業の正社員・正職員（常勤雇用）」が147名（25.7%）、「公務・団体の正職員（常勤雇用）」が108名（18.9%）、「臨時雇用（季節雇用も含む）」が32名（5.6%）、「パートタイマー」が232名（40.6%）、「無職」が1名（0.2%）、「その他」が51名（8.9%）であった。

母親の職業（N=597）は、「事務（一般事務など）」が134名（22.4%）、「店員（スーパー・商店の店員など）」が58名（9.7%）、「営業・セールス（保険・自動車などのセールス）」が32名（5.4%）、「農・林・水産業」が23名（3.9%）、「運輸・通信（職

業運転手、荷役などの運輸従業者、通信従業者）」が8名（1.3%）、「製造・建設業（製造、加工、組立、建設、修理などの従事者）」が25名（4.2%）、「工員・作業員」が17名（2.8%）、「理容・美容などのサービス業」が14名（2.3%）、「飲食店などのサービス業」が45名（7.5%）、「専門職・技術的職業（医師、看護婦、保母、教員、弁護士、税理士など）」が185名（31.0%）、「管理的職業（会社などの役員、管理職など）」が9名（1.5%）、「その他」が47名（7.9%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の職業（N=573）は、「事務（一般事務など）」が130名（22.7%）、「店員（スーパー・商店の店員など）」が54名（9.4%）、「営業・セールス（保険・自動車などのセールス）」が30名（5.2%）、「農・林・水産業」が23名（4.0%）、「運輸・通信（職業運転手、荷役などの運輸従業者、通信従業者）」が8名（1.4%）、「製造・建設業（製造、加工、組立、建設、修理などの従事者）」が25名（4.4%）、「工員・作業員」が15名（2.6%）、「理容・美容などのサービス業」が13名（2.3%）、「飲食店などのサービス業」が42名（7.3%）、「専門職・技術的職業（医師、看護婦、保母、教員、弁護士、税理士など）」が180名（31.4%）、「管理的職業（会社などの役員、管理職など）」が9名（1.6%）、「その他」が44名（7.7%）であった。

母親の出勤時間（N=594）は、「午前7時前」が12名（2.0%）、「午前7時～8時前」が133名（22.4%）、「午前8時～9時前」が243名（40.9%）、「午前9時～10時前」が90名（15.2%）、「午前10時～午後5時前」が30名（5.1%）、「午後5時以降」が14名（2.4%）、「決まっていない（交代勤務など）」が72名（12.1%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の出勤時間（N=570）は、「午前7時前」が12名（2.1%）、「午前7時～8時前」が130名（22.8%）、「午前8時～9時前」が236名（41.4%）、「午前9時～10時前」が85名（14.9%）、「午前10時～午後5時前」が28名（4.9%）、「午後5時以降」が10名（1.8%）、「決まっていない（交代勤務など）」が69名（12.1%）であった。

母親の帰宅時間（N=584）は、「早朝」が3名（0.5%）、「午前10時ごろ」が1名（0.2%）、「昼ごろ」が40名（6.8%）、「午後6時ごろ」が373名（63.9%）、「午後8時ごろ」が27名（4.6%）、「午後10時ごろ」が7名（1.2%）、「午後11時よりも遅い時間」が11名（1.9%）、「決まっていない（交代勤務など）」が122名（20.9%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の帰宅時間（N=561）は、「早朝」が2名（0.4%）、「午前10時ごろ」が0名（0.0%）、「昼ごろ」が36名（6.4%）、「午後6時ごろ」が364名（64.9%）、「午後8時ごろ」が27名（4.8%）、「午後10時ごろ」が6名（1.1%）、「午後11時よりも遅い時間」が10名（1.8%）、「決まっていない（交代勤務など）」が116名（20.7%）であった。

母親の収入（月平均）（N=597）は、「2万円未満」が12名（2.0%）、「2～5万円未満」が72名（12.1%）、「5～8万円未満」が120名（20.1%）、「8～15万円未満」が164名（27.5%）、「15～20万円未満」が99名（16.6%）、「20万以上」が123名（20.6%）、「わからない」が7名（1.2%）であった。保育園に通園している子どもの母親についてのみ分析してみると、母親の収入（月平均）（N=573）は、「2万円未満」が11名（1.9%）、「2～5万円未満」が64名（11.2%）、「5～8万円未満」が116名（20.2%）、「8～1